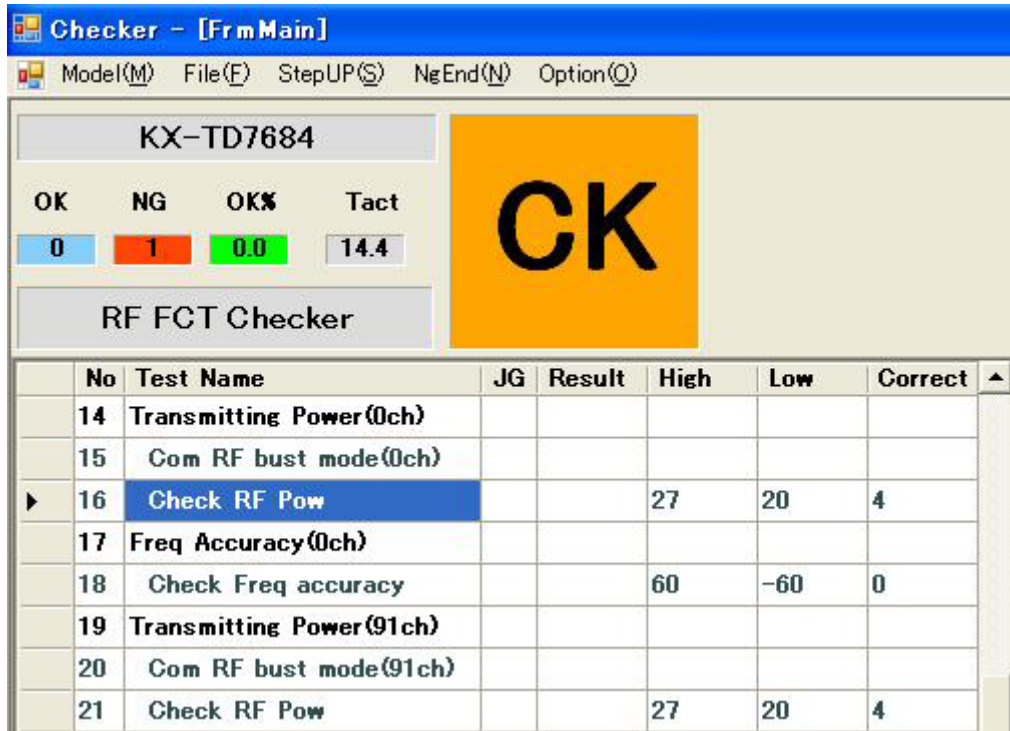


創開電子チェッカー取り扱い説明書

チェッカー検査画面の構成



KX-TD7684

はメニューの Model で選択した機種名。

RF FCT Checker

は検査の種類名。

OK

0

は検査で OK になった数。

NG

1

は検査で NG になった数。

OK%

0.0

は OK 率。

Tact

14.4

は検査時間。

CK

は判定表示、CK で検査中、OK で OK 判定、NG で NG 判定

No

はステップ番号

Test Name

は検査項目

JG

は各ステップの判定 (OK か NG の表示)

Result

は結果値

High

は上限値

Low

は下限値

Correct

は補正值

各メニューについて説明します。



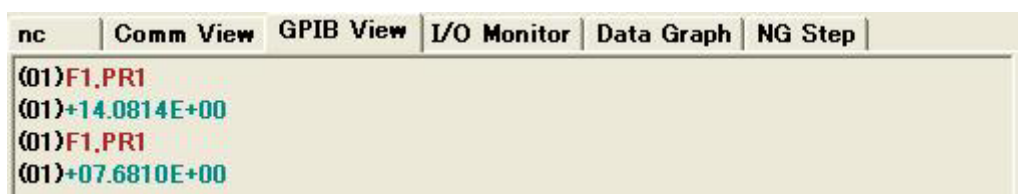
- Model
 - 機種を選択です。Model をクリックすると選択できる機種名が表示されます。
- File Password
 - パスワードを設定して各種の設定を編集できるようにします。
- File DataSave
 - 編集した設定をディスクへ保存します。
- File Exit
 - チェッカーソフトを終了します。
- StepUP/StepStop
 - StepUP をクリックすると StepStop、StepStop をクリックすると StepUP 表示になります。StepStop で各検査ステップの終了時に検査を中断します。
- NgEnd/NgPass
 - NgEnd をクリックすると NgPass、NgPass をクリックすると NgEnd 表示になります。NgEnd で検査が NG になったときに検査を終了します。NgPass で検査が NG でも検査を続行します。
- Option PringOut
 - 検査画面の現在の表示状態をプリントアウトします。

各タブについて説明します。

- nc
 - タブ表示画面を隠します。
- Comm View



- シリアル通信のモニターと通信テストを行うことができます。
 - PC からの送信は茶色の表示でポート番号と送信文字を表示し、受信は緑色の表示でポート番号と受信文字を表示します。上記の例では ver と改行を送信したら、まず CR コードのみ受信、次に 0.016 と CR コード受信、次に CR コードのみ受信、次に「 \backslash 」と CR コード受信の 4 行受信になります。
 - 改行は Terminate 表示のアスキーコードで行います(13 で CR コード)。Comm No. が Comm All の時は通信のすべてのポートについて送受信を表示し、指定のポート番号では指定のポートの表示のみになります。
 - 直接手動で送受信を行うときは、Comm No.を指定の番号に変更して Menu の Step を StepStop にすることにより直接の手動操作ができます。(事前に検査で通信速度等の設定を実行されていることが必要です。)
- GPIB View



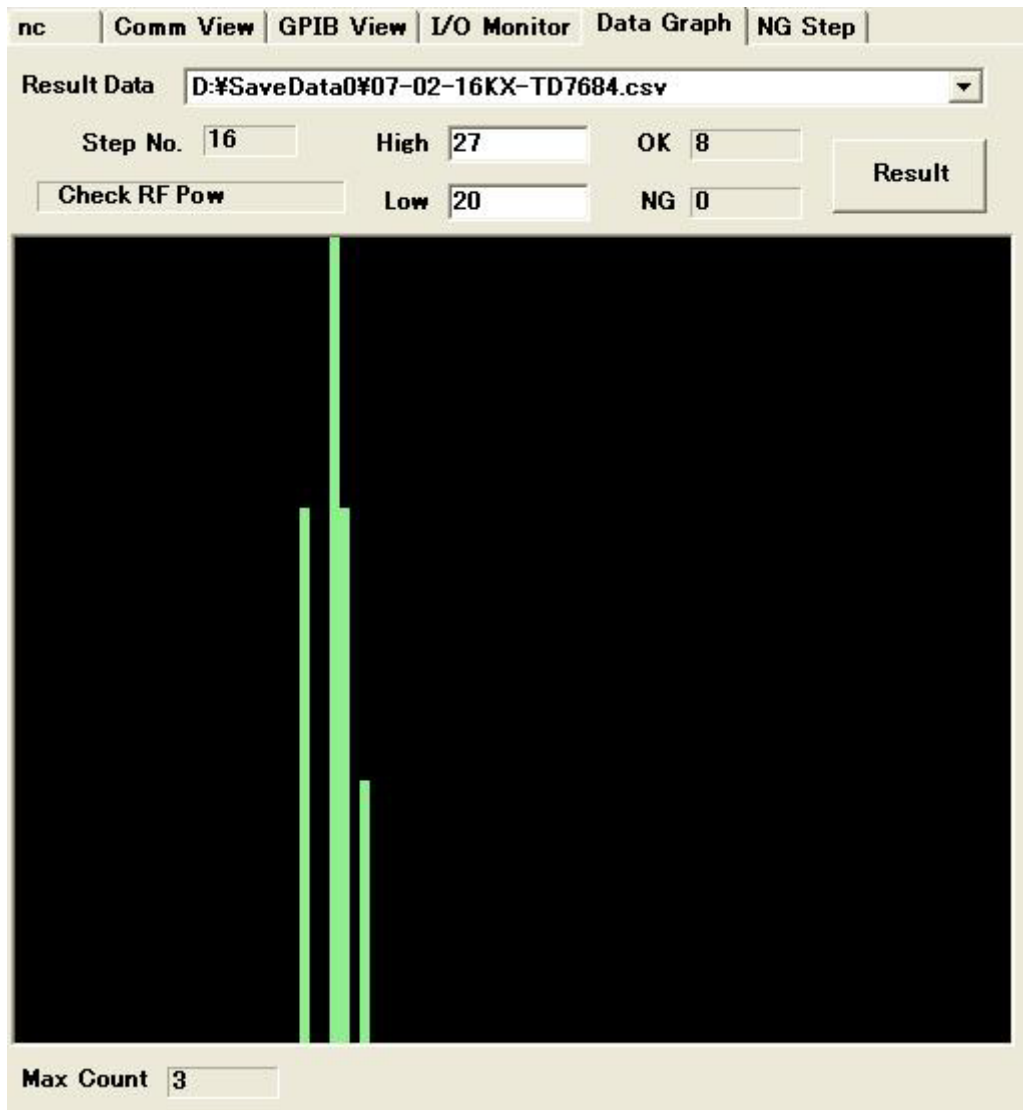
- GPIB の送受信モニターです。
- PC からの送信は茶色の表示で GPIB アドレスと送信文字を表示し、受信は緑表示で GPIB アドレスと受信文字を表示します。

・ I/O Monitor

nc	Comm View	GPIB View	I/O Monitor	Data Graph	NG Step
400 Main Down		410 ATT 1dB	420 Dum)Pow		430
401 OK Stamp		411 ATT 2dB	421 Dum)Rst		431
402		412 ATT 4dB	422 DMM1		432
403		413 ATT 8dB	423 DMM2		433
404		414 ATT 16dB	424 RS1		434
405 Set)Pow		415 ATT 30dB	425 RS2		435
406 RY Ant1/2		416	426 RS3		436
407 RY Dum/SP		417	427 RS4		437
440 Down Low		450	460		470
441		451	461		471
442		452	462		472
443		453	463		473
444 Start1		454	464		474
445 Start2		455	465		475
446 Step Off		456	466		476
447 Reset		457 nc	467		477

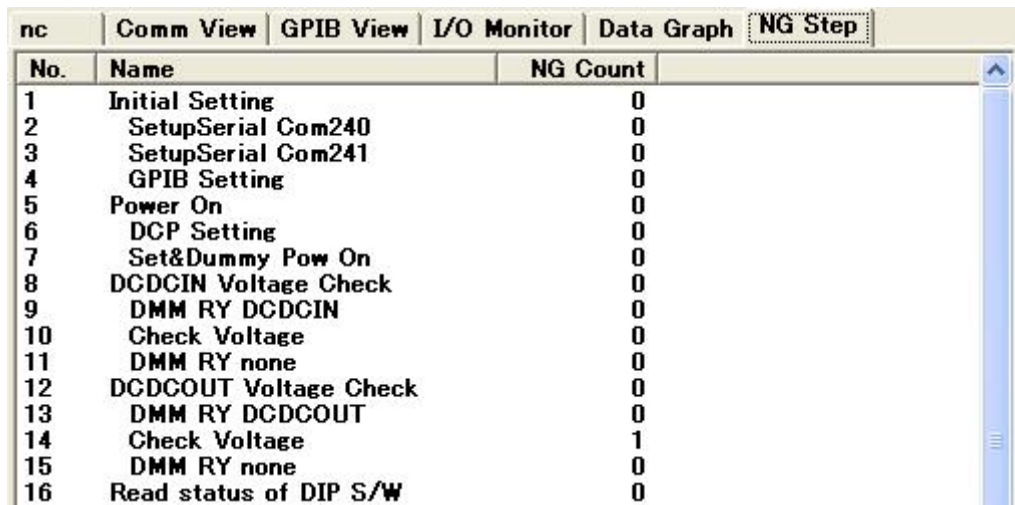
- I/O の入出力状態の表示と、出力の On/Off 制御を行うことができます。
- 出力の制御は現在の出力番号をクリックして On/Off 制御を行います。
- Page up と Page Down は表示する I/O の番号群を切り替えます（接続されていない I/O 群に切り替えると動作が極端に鈍くなります）

• Data Graph



- 検査結果の統計をグラフ表示にすることが出来ます。横軸は上下限の値。縦軸は上下限を100分立して結果の値を当てはめたときの個数。
- 基本的な表示方法は表示したいステップの左側検査項目をクリックすると各設定がData Graphにコピーされて表示されます。
- Result Dataは保存された結果データの保存日と機種名を選択します。
- Step No.は検査のステップ番号です。その下に検査名が表示されます。
- HighとLowは画面に表示する上下限值です。
- OKは上下限に入っている数。NGは上下限に入っていない数。
- Resultは上下限を再設定した後に結果を反映表示するボタン。
- Max Countは一番高いグラフの最大個数。

• NG Step



The screenshot shows a software window titled 'NG Step' with several tabs: 'nc', 'Comm View', 'GPIB View', 'I/O Monitor', 'Data Graph', and 'NG Step'. The 'NG Step' tab is active, displaying a table with three columns: 'No.', 'Name', and 'NG Count'. The table lists 16 test steps, with step 14 having a count of 1 and all other steps having a count of 0.

No.	Name	NG Count
1	Initial Setting	0
2	SetupSerial Com240	0
3	SetupSerial Com241	0
4	GPIB Setting	0
5	Power On	0
6	DCP Setting	0
7	Set&Dummy Pow On	0
8	DCDCIN Voltage Check	0
9	DMM RY DCDCIN	0
10	Check Voltage	0
11	DMM RY none	0
12	DCDCOUT Voltage Check	0
13	DMM RY DCDCOUT	0
14	Check Voltage	1
15	DMM RY none	0
16	Read status of DIP S/W	0

- 各ステップの NG 数を表示します。
- 上部の No. Name NG Count タブをクリックするとソートが出来ます。No.は番号順、Name は名前順、NG Count は NG が多い順

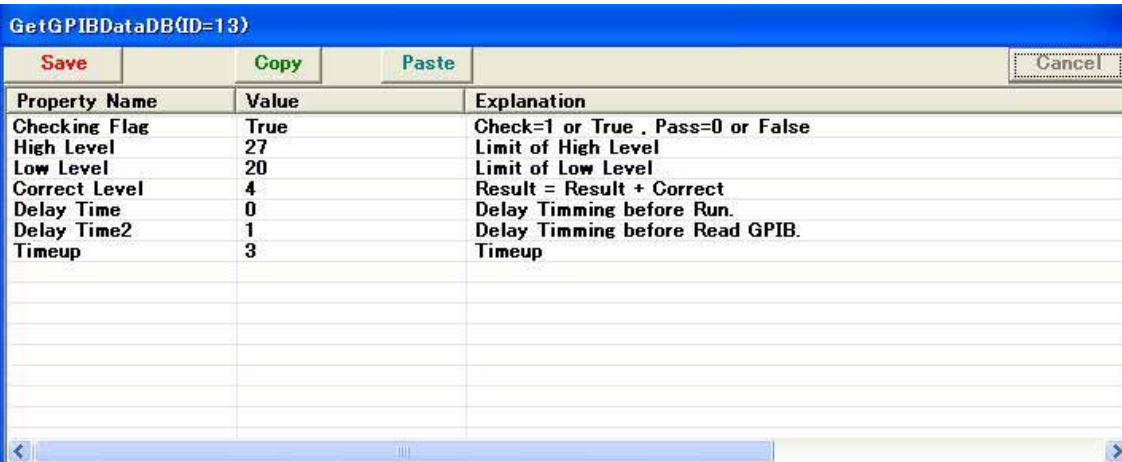
検査の編集について説明します

- このチェッカーは数種類の検査ブロックを登録しており、各検査に対応した検査ブロックを選択して各プロパティ(上下限などの値)を設定することによりあらゆる検査に対応できるような仕組みで作られています。

通常はプログラムの変更なしで検査ブロックとプロパティの変更のみで検査を作成していきます。

各検査ブロックとプロパティの設定については検査ブロック取り扱い説明書を参照ください。

- プロパティの変更できる内容にはユーザー毎に制限を掛けられるようになっています。後記“例”のプロパティが全表示なのですが、制限があるユーザーの場合



Property Name	Value	Explanation
Checking Flag	True	Check=1 or True , Pass=0 or False
High Level	27	Limit of High Level
Low Level	20	Limit of Low Level
Correct Level	4	Result = Result + Correct
Delay Time	0	Delay Timming before Run.
Delay Time2	1	Delay Timming before Read GPIB.
Timeup	3	Timeup

のようになります。

- ・ 例として一つ解説します。

- まず初めに編集できるようにメニューの File PassWord でパスワードを入力します。
- 編集したいステップをクリックするとプロパティが表示されます。例として送信電力測定を選びました。

Property Name	Value	Explanation
Checking Flag	True	Check=1 or True , Pass=0 or False
Checking Name	Check RF Pow	Name of Check
Value Type	0	Decimal=0 , Hex=1
High Level	27	Limit of High Level
Low Level	20	Limit of Low Level
Correct Level	4	Result = Result + Correct
Delay Time	0	Delay Timming before Run.
GPIB Send Command	ChmodSP TEST Set...	GPIB Send Command
GPIB Send Value	2401.056 10 30 200...	GPIB Send Value
Delay Time2	1	Delay Timming before Read GPIB.
GPIB Read Command	ReadRF_POW	GPIB Read Command
GPIB Read Value		GPIB Read Value
GPIB Unit	1	Result = GPIB result * value
Timeup	3	Timeup

- Save ボタンは設定をメモリーへ保存します（最終でメニューの File DataSave でディスクへ保存しないと再立ち上げ時には反映しません）
- Copy ボタンはプロパティ全値をクリップボードへコピーします。
- Paste ボタンはクリップボードの値を全プロパティ値に反映します。（Copy と Paste は他のステップで同一検査ブロックに同じ値をコピーするのに使用します。Paste は同一検査ブロックだけに使用してください）
- Checking Flag は検査をパスするかどうかの設定です。True または 1 を設定すると検査を行い、False または 0 にすると検査をパスします。（Title ブロックに False または 0 を設定すると次の Title ブロックまでの検査をパスします）
- Checking Name は検査項目に表示する検査名です。
- Value Type は 0 で 10 進数による判定、1 で 16 進数による判定を行います。
- High Level は判定の上限値、Low Level は判定の下限値です。
- Correct Level は結果に加算される補正值です。
- Delay Time はこの検査ブロックを実行する前のウエイト時間です。
- GPIB Send Command は GPIB の送信データです。
- GPIB Send Value は GPIB の送信データに付加する値です。
- GPIB Read Command は GPIB データを取り込むための GPIB コマンドです。
- GPIB Read Value は GPIB Read Command に付加するデータです。
- GPIB Unit は受信データに乘算する値です (kHz 単位で判定したいのに GPIB 受信が Hz 単位で来るので結果に 0.001 を掛け合わせると kHz 単位になる)
- Timeup は上下限の範囲に入らない場合の繰り返し時間。